

## 国際医療福祉大学 成田病院 糖尿病教育研修カリキュラム

認定番号：1031

認定日：2021年4月1日

### 1. 当院の特徴

2017年4月1日に国際医療福祉大学医学部が千葉県成田市公津の杜に開学した。一学年140名中、20名が海外からの留学生であり、「高度な総合的診療能力と国際性を兼ね備えた医師の育成」をスローガンとしている。そして2020年3月16日、国際医療福祉大学成田病院が開院した。642床（一般病床600床、精神病床40床、感染症2床）、およそ40診療科を有し、高度で質の高い医療を地域の皆様に提供するため、脊椎脊髄センター、消化器病センター、脳卒中センター、血液浄化（透析）センターをはじめ、国際臨床感染症センター、国際遠隔診断センターなどの各センターも併設している。

国際医療福祉大学は1995年に栃木県大田原市に開学した日本初の医療福祉の総合大学であり、千葉県内には国際医療福祉大学市川病院、栃木県の国際医療福祉大学病院、同塩谷病院、東京都の同三田病院、静岡県と同熱海病院に加え、当院を含めた6の附属病院が連携して日々、診療・教育・研究を推進している。

### 2. 糖尿病教育研修の目標

本カリキュラムを通じて、内科全般の知識に加えて、糖尿病の専門性を有して診療や教育、患者への生活習慣の指導ができる医師の育成を目指す。本プログラムの最終目標は日本糖尿病学会専門医制度規則第1章第1条にある“糖尿病学の進歩に呼応して糖尿病臨床の健全な発展普及を促し、有能な糖尿病臨床医の養成を図り、国民の健康増進に貢献すること”である。

### 3. 各年次における目標

当院における教育研修プログラムを通じて、患者中心の医療の体現者としての臨床医になることを目指し、各年次に具体的な目標を掲げる。当院にはほぼ全ての診療科を有しているため、多診療科との連携やコメディカルとの多職種連携を十分に学ぶことが可能である。

本教育研修プログラムを開始するにあたり、日本内科学会、日本糖尿病学会に入会し、以下のごとく年次毎に目標を定め研修プログラムを遂行する。

**【研修1年次】**病棟にて入院患者を上級医・研修指導医とともに受け持つ。1年目の目標は糖尿病の診療力、知識をしっかりと身につけることにある。

1. 病歴、家族歴の聴取や患者とのコミュニケーションの取り方を学ぶ。

2. 診察手技を研修指導医に加えて、腎臓内科、循環器内科、呼吸器内科、神経内科、眼科の指導医から学ぶ。
3. 検査計画や合併症についての種々の検査やその評価について正しい知識を身につける。頸動脈エコー、CAVI、ABIなどの検査は自ら体験し実践する。
4. 糖尿病の診断、病型、合併症診断に必要な知識と技術を習得する。基本的な知識に関しては、1年をかけて「糖尿病専門医研修ガイドブック」を通読する。
5. カンファレスにおいて自身で担当した症例以外の症例に関しても知識を深める。
6. 多職種連携に関して学ぶ。
7. 1年次の後半からは研修指導医の外来につき、外来診察を学ぶ。

**【研修2年次】**2年次からは外来研修も開始する。2年次は上級医・研修指導医に適宜相談しながらも、必要な検査を立案・実践し一人で診療可能なレベルへの達成を目指す。

1. 病棟では1年次研修医の直接指導を行い、自ら1年次で得た知識、手技を再確認するとともに、教える立場を経験する。
2. 病棟で担当した入院患者のフォローアップ外来や新患者を適宜、上級医・研修指導医に指導を受けつつ担当する。
3. 上級医・研修指導医とともに他科からの依頼患者の血糖管理を行う。  
(当院では整形外科、外科からの周術期管理や妊娠中の血糖管理依頼が多い。)
4. 上級医・研修指導医とともに糖尿病の合併症の有無と進行度を自ら診断し治療する。
5. 腎臓内科より透析室にて透析の基本的知識を学び自ら実践する。
6. 血糖測定、インスリン注射手技、食事療法、運動療法の患者指導に関して看護師(糖尿病療養指導士)、管理栄養士、理学療法士と協力して行い個別指導を学ぶ。また月に一度行われている糖尿病教室の講師として講演し、集団教育に関しても学ぶ。
7. 院内の整形外科医、形成外科医、血管外科医、皮膚科医との連携で糖尿病足壊疽、末梢動脈疾患などに関して学び、自ら診断や程度のある程度の治療を行えるようになる。
8. 膵性糖尿病、1型糖尿病、糖尿病合併妊娠など、より複雑な治療を要する患者を担当する。また千葉県1型糖尿病患者の会「つぼみの会」のサマーキャンプに参加する。
9. 脳血管障害、心血管疾患急性期の糖尿病管理に関して、脳神経内科、脳神経外科、心臓外科と連携して行う。
10. 全身麻酔による外科手術症例の周術期糖尿病管理やICUにおける急性期全身疾患の糖尿病管理に関して救急科ならびに麻酔科と連携して行う。
10. 糖尿病妊婦の糖尿病管理に関して産科と連携して行う。
11. 低血糖について、発症機序、症状について詳細に理解し、対処できる。
12. 糖尿病前昏睡から昏睡患者の診断や鑑別することができる。糖尿病性ケトアシド

ーシスや高浸透圧高血糖状態の症状や臨床所見を理解し、必要な検査を実施して、診断と重症度の判定を行い、それぞれの治療ができる。

13. 各種ガイドラインの根拠となっている臨床研究文献の背景を理解し、読解できるようになりテラシーの習得に向けて、抄読会を開始する。
14. 自ら経験した糖尿病症例に関して学会報告を行う。

【研修3年次】3年次は主治医として外来・入院患者を受け持ちながら各種検査を行うとともに、初期臨床研修医の上級医として指導も行なう。

1. 経験症例を更にふやし、知識を深める。
2. 1、2年次研修医の直接指導し、指導方法を学ぶ。
3. コメディカル教育の中心となって勉強会を開催し、また様々な学会、勉強会に積極的に参加し研鑽する。
4. 学会の定める研修カリキュラムを適切に達成出来るよう、研修指導医と相談し、不足する研修内容は、連携施設、学会、各種学習会などを通じて習得出来るよう研鑽に励む。
5. 臨床現場における問題点、改善すべき点を科学的に捉え、学会、論文等に発表する。